

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## 【粟井小学校】

＜第3学年：大好き たくなみ山＞

校区内にある標高約200mの宅並山は、春は桜の名所として知られている。また、河野氏の城跡として文化的な意味合いもあわせもつ場所である。

この宅並山について、以下の4つのねらいをもって学習を行った。

- ① 地域の自然のすばらしさやそれを守る人々の工夫が分かる。また、情報を比較・分類するなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。
- ② 宅並山を育てる会の方に関わりながら、進んで課題を解決することができる。
- ③ 宅並山を守る活動への想いやすばらしさに気付くことができる。
- ④ 校区にあるすばらしい自然を守っていこうとする意欲をもつ。

10月には「宅並山を育てる会」の方や「自然名人」の方々と一緒に山に登り、植物の名前を調べたり、木の実を拾ったりしながら自然に触れ合うことができた。また、「宅並山を育てる会」の方々から話を聞き、自然や文化財を守ることの苦労や大切さ、楽しさを理解することができた。

今回の学習を通して、身近にある自然や文化財などを守るために、自分ができることについて考えることができた。

＜第5学年：レッツ米ライフ 米作り体験を通して＞

粟井校区では、米作りを行っている農家が多い。また、社会科において、農業（米作り）について学ぶ機会もある。

そこで、以下の4つのねらいをもって学習を行った。

- ① 地域の主な産業である米作りのよさと課題及びそれに携わる人々の願いが分かるとともに、情報を比較・分類・関連付けるなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。
- ② 調べたことや体験して分かったことを、相手に分かりやすく伝えることができる。
- ③ 地域の方々との交流を図りながら、共に活動し、学ぼうとする。
- ④ 勤労生産の大変さや収穫の喜びを味わい、自然やお世話になった方々に感謝の気持ちをもつことができる。

校区内の農家の方から水田を借りて、6月には田植え、10月には稲刈りを行った。米作りを体験することで、「食」の重要性や自然環境の保全の意義を改めて理解することができた。また、現在問題となっている「食品ロス」への関心が高まり、好き嫌いをせず、できるだけ給食の残食を減らそうという思いももつことができた。

15 陸の豊かさも  
守ろう



12 つくる責任  
つかう責任

